



当日のタックル

**●Tackle Guide**  
真鶴沖のオニカサゴのポイントは水深80メートル前後が中心で比較的浅いため、道糸PE2号以下でオモリ60~80号のライトタックルでも楽しめる。ライトの場合は、仕掛けのハリスを4号程度にして根掛かりしときの高切れを防止しよう。

吐く。  
しかし、その後は各所でオニカサゴが上がったが、20センチ前後のリリースサイズが目立つ。潮がほとんど動いておらず、大型のオニカサゴの活性が低いのだろう。  
そんな折「今度は型がよさそうですよ」と激しくたたかれる竿を手に巻き上げを開始したのは左トモ2番の渡辺さんだ。しかし、上がったきたのは30センチのキントキで苦笑い。  
左トモの牧野さんが38センチのオニカサゴを釣り上げたところで、

食い気はある！

「アマダイに行きましょう」と船長が告げ、9時45分に移動となった。  
船は灘に向かい、到着したのは真鶴半島の御林の南側に位置する水深85メートルの砂

●牧野さんが上げた40センチのアマダイ



泥帯だ。  
最初にアマダイを釣り上げたのは自他ともに「アマダイフリーク」と認める左トモの野口さんで、32センチをゲット。続いて牧野さんも同級を釣り上げる。  
潮は相変わらず緩慢だが、投入すればアカボラ(ヒメコダイ)やトラギス、レンコダイ(キダイ)などこの釣りの定番ゲストがヒットしてきて、時折アマダイが顔を出すといった展開が続く。  
アマダイ釣りは底タチを取り、1メートルほど巻き上げたタナを中心に誘いを入れるのが基本。しかし今日のように潮が動いていないと先バリが底に着いてしまい、ハリスがたるんだ状態になるとアタリが分かりづらくエサを取ら

何がかかったのかと海面をのぞき込んでいたから、ポツカリ浮かび上がったのは30センチほどのアマダイ。  
「オニカサゴ用のエサに食ってくるなんてよほど腹が減っていたな。今はオニカサゴ狙いだからアマダイは外道扱いだよ」とみんなに冷やかされながらもうれしい1尾にほほを緩める彼女だった。  
最初にオニカサゴを上げたのは右胴の間の小川さん。25センチと小ぶりだ。「これからサイズアップに頑張りますよ」と意気込みを見せる。  
私の竿がフワフワと動く。どうやらオマツリしたようだ。反対側の高橋さんと絡んだ

れてしまうので、タナを1.5、2メートルと高く取るのが攻め法だ。  
ここまでの私の釣果は、早朝に20センチほどのオニカサゴを2尾釣った後は、ゲストとの格闘の末に30センチ前後のアマダイを3尾。後は良型を狙うばかりだ。  
釣友たちも良型のアマダイを狙って果敢に誘いを入れてみると、小川さんが「チョットよさそうですよ」と巻き上げ開始。  
彼はアマダイ釣りが初めてとのことだ。  
「これって本当にアマダイかな？」と不安を口にしたのだが、水深の半分ぐらい巻き上げたところで激しく抵抗したので、  
「これがアマダイの特徴だから

●船宿information

相模湾真鶴港  
**ふみ丸**  
☎0465-68-2694  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
▶料金=オニカサゴ&アマダイ乗合 一人9000円(エサ、水付き)。仕立は3名まで3万円、1名増すごとに6000円  
▶備考=予約乗合、6時出船。ほかタイ五目、カワハギへも出船



松澤 史雄船長

ら間違いないよ」と伝えたとおり、上がったのは38センチのアマダイであった。  
左ミヨシ2番の米光さんも「ようやく写真に撮ってもらえるサイズが釣れました」と36センチのアマダイを手にとった。  
そして牧野さんが当日最大40センチを釣り上げたところで沖揚がりとなった。  
ビッグサイズのオニカサゴは出なかったもののカンコやアマメカサゴが交じり、アマダイは各自2~4尾。潮具合が今一つだったことを思えば、まずまずの釣果だろう。  
冬でも穏やかな真鶴沖で楽しむオニカサゴとアマダイ。鍋ネタを求めて出かけてみてはいかがだろうか。



▲オニカサゴは大きな胸ビレと尾ビレで仕込むヒレ酒も最高よ！  
▼カンコとアマメカサゴの一荷

朝夕の寒さが身に染みるこの季節は白い湯気が立ち上る鍋物が恋しくなる。家族でフーイー言いながら囲む鍋は身も心も温めてくれる。  
鍋の種類は様々だが、釣りを趣味とする者としては市場では手に入りづらい魚を釣って、みんなに「おいしい」と言わせたいもの。  
そこで今回、私が選んだターゲットはオニカサゴ。プリッとした甘みのある身と、大きな頭やあらから取れる出汁で仕上げるオニ鍋は絶品だ。  
今回は相模湾真鶴港・ふみ丸の松澤史雄船長に、オニカサゴとポイントに近いアマダ

イのリリース釣りをお願いし、釣友7名で仕立てて1月中旬に出かけてきた。  
**オニ仕掛けにアマダイ?**  
真鶴は地形的に北西風の影響を受けづらく、ポイントも港から目と鼻の先なので冬でも出船を見合わせる事が少ないのも強みとなっている。  
6時を回ったところで出船。オニカサゴからスタートするとのこと、船で用意されたサバのタンザクと持参したイカタンをダブルでハリに掛け、もう一つのハリにはカタクチイワシとサケのハラモを掛けてスタンバイ。こうして食



のいいエサを探すのだ。  
10分もすると「到着しましたので始めてください」と船長から開始の合図が出た。  
このポイントは根縁周りで水深80メートル前後の比較的フラットな場所を流していく感じだ。  
本誌スタッフの高橋恵子さんが、「ヒットしたけどあまり引かなくなっちゃった」と巻き上げ開始。

●相模湾真鶴港発↓真鶴沖 地の利を生かしたりりり釣り 真鶴沖のオニカサゴ&アマダイ

知得! Tips and Tricks 潮が緩いときのオニカサゴのコツ

当日のように潮が緩いときは、エサを小さくして積極的に誘うといい。エサが大きすぎると誘いを入れても動きが悪くアピール不足。サバやイカのタンザクは、ハサミで縦に切り込みを入れるとヒラヒラと踊ってアピール度が増す。ハリ数は2本とし、タナを若干高めにしてまめに誘うといい。置き竿はNG。



▶一定のペースで底タチと誘いを繰り返す

「オニカサゴ狙いだからアマダイは外道扱いだよ」とみんなに冷やかされながらもうれしい1尾にほほを緩める彼女だった。  
最初にオニカサゴを上げたのは右胴の間の小川さん。25センチと小ぶりだ。「これからサイズアップに頑張りますよ」と意気込みを見せる。  
私の竿がフワフワと動く。どうやらオマツリしたようだ。反対側の高橋さんと絡んだ



●すずき よしかず/指先にハリのカエシまで刺す失態をしてしまったが、憎たらしいあいつの指だと思って一気に抜く。あいつとはだれなのかは、口が裂けても言えません。